



BS1スペシャル

“フェイクニュース”を阻止せよ ～真実をめぐる攻防戦～

放送日:2017年6月24日 放送時間:49分

対象校種 高校

対象教科 情報 総合

この番組の良さ

● フェイクニュースとは何か

フェイクニュースとは、事実ではない報道のうち「故意」のものを指し、広義にはあらゆるメディアで起こりうるものです。本番組では、SNSやブログなどを用い、虚偽の情報で世論の誘導を行うなど、高い政治性をもつ虚偽情報をフェイクニュースとして扱っています。情報社会において、情報がグローバル化し、発信者が多様化し、影響力が大きくなっていることが分かります。

● フェイクニュースとの闘い

番組は、フランスのある新聞社で組織された、虚偽のニュースを暴く専門チームの動きを追った内容です。フランス大統領選挙を背景に、対抗候補にマイナスイメージを植え付けるため、フェイクニュースが発信され続けます。彼らは事実関係を示す証拠や発信者などを追求し、真実を伝えようとしています。膨大な虚偽の情報を使って政治まで誘導しようとする、現代社会における情報のもつ力と、その恐ろしさも実感することができます。

番組活用のポイント

● 情報社会で不可欠となる資質・能力

スマートフォンの普及によって、子供たちが触れる情報量は以前とは比べものにならないほど増えました。しかし、簡単に情報を得ることはできても、「ネットで見た」情報をすぐに信じてしまうと、虚偽の情報に振り回されてしまうこともあります。情報を吟味し、判断力を身に付けることが必要です。本番組は、今後の情報社会を生きる上で必須の資質・能力を育てる教材として活用できます。

● 自分のこととして考える

この番組ではフランス大統領選をめぐるフェイクニュースが扱われていますが、決して外国だけの話や他人事ではありません。国内で、そして子供たちもさまざまなフェイクニュースにさらされている現状があります。18歳選挙権、インターネットでの選挙運動も始まり、ネット上の情報と社会生活への影響等について自分のこととして捉え、どのように判断すべきか、各自が真剣に考えてゆく必要があります。また、情報の受信者としてだけでなく、発信者としての心構えも同時に考えると効果的でしょう。

● 何を判断基準にすべきか

情報の信憑性^{びよう}については、発信者を確認したり、複数のメディアを比較したりすることが基本といえます。ネット上の情報は他のメディアに比べて発信者が多様であることから、その内容も質もさまざまです。ただし、「ネットの情報は全て信用できない」ということは決してありません。誰もが発信できるからこそ、大手メディアで報道されない貴重な情報が得られる場合もあります。偽情報を防ぐために、取締り^{びよう}や罰則を強化すれば良いと短絡的に考えず、表現の自由と信憑性の関係について、深く考察することもできます。



執筆者
千葉県総合教育センター
研究指導主事 永野 直

あやしい情報をどう見分ける？

対象校種 高校 対象教科 情報

[授業時間 50分×2] まるごと視聴

児童生徒の思考と活動の流れ	教師の支援と評価
<p>ネット上の情報は他のメディアと比べて信用できる？ できない？</p> <p>確かに詐欺やデマなどの話をよく聞く でも新聞やテレビは正しいといえるの？ 情報が速くて便利だし、実際に役に立っている</p> <p>信用できる情報とできない情報はどうやって見分けたいだろうか？</p> <p>ネットの情報は怪しいから信用しなければいい 他のメディアや他の人の意見も聞く 誰が発信しているかが重要では？</p> <p>番組まるごと視聴</p>  <p>なぜフェイクニューサーはネットを利用するのか、理由を考える</p> <p>速く、広く拡散する 世界中に伝えられる 誰でも発信できる 特定されにくい</p> <p>フェイクニューサーの言い分はどんなものだったか発表する</p> <p>自分の考えを述べる権利がある 事実は立場で変わる 多様な意見があるのが重要</p> <p>でも、これらは事実のニュースについても言えることではないか？</p> <p>情報を発信する側にとって、「自由なこと」と「してはいけないこと」を各自で考え、発表する</p> <p>否定的なことは、とにかく発信しなければ良いということかな？ 自分の考えを発信する自由はあるはず。でも、嘘や誹謗中傷はいけないだろう。</p> <p>情報を受信する側にとって、フェイクニュースに惑わされないようにするにはどうしたら良いだろうか？グループでディスカッションする。</p> <p>発信者や情報源を調べる ネットだけに頼らない うかつに拡散しない</p> <p>でも、他の情報と比較して、逆の意見をすぐに信じてしまったら、結局同じことでは？</p> <p>多様な意見を比較すること、事実、推測、意見・解釈の違い、発信者の立場、一次情報の発信元はどこかなど、情報を判断する知識と技能を身に付け、自ら判断してゆかなければならない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ネット上の情報の印象、惑わされたこと、役立ったことなどについて聞く。生徒はネットを最も日常的な情報源としているはずである。率直な意見を述べられる場になるよう働きかける。 なぜ、信用できない情報があるのだろうか、どう見分けていくべきなのか、問いかける。 ネットを通じたフェイクニュースについて番組を視聴する。フェイクニューサーは「表現の自由」を理由に虚偽の情報発信を正当化している。表現の自由があれば、どんなことを発信してもいいのだろうか。各自で考える時間を設定する。 ネットの特性について考察する場を設定する。これらの特性は、メリット、デメリットの双方に関わることに気付かせたい。 自分のこととして捉えるために、身近な話題を提示して考えてみるのも有効である。例えば、SNSに「あのラーメン屋はおいしくない」と投稿するのはどうだろうか。個人の感想は禁止されるべきものではない。しかし、誹謗中傷や「この店には行かない方がよい」など書いた場合、業務妨害と判断される可能性もある。一概に良い・悪いと簡単に判断はできない。 情報収集は簡単になったが、その判断は簡単ではない。 固定のニュースメディアに偏らず、多様な情報にアクセスすること。 他者に精神的、金銭的損害を与えないこと。 発信者としても責任をもつこと。等を基本としながら、各自が判断しようとする意識をもつことが最も重要である。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】 情報の発信・受信について自ら考え、判断してゆこうとする態度で取り組むことができたか。</p>